

# 県内景気動向調査

株式会社清水地域経済研究センター

## 要旨

〈今期（2026年1月時）〉

### 業況：仕入単価は低下したが、売上げが減少し業況全般は悪化

- ・今期の業況全般DI（「良い」から「悪い」を差引きし指数化）は、前回（2025年10月時調査）に比べ▲2.1<sup>ポイント</sup>の0.0と悪化したが、先行き（2026年4月時予想）は今期比+5.2<sup>ポイント</sup>の5.2と改善の見通し。
- ・売上DIは前回は▲5.1<sup>ポイント</sup>の▲5.8と減少したが、先行きは今期比+6.5<sup>ポイント</sup>の0.7と増加の見通し。
- ・採算DIは前回は▲0.8<sup>ポイント</sup>の▲15.3と悪化したが、先行きは今期比+5.7<sup>ポイント</sup>の▲9.6と改善の見通し。
- ・販売単価DIは前回は▲3.0<sup>ポイント</sup>の20.4と低下し、先行きも今期比▲4.2<sup>ポイント</sup>の16.2と低下の見通し。
- ・仕入単価DIは前回は▲1.7<sup>ポイント</sup>の39.0と低下し、先行きも今期比▲7.1<sup>ポイント</sup>の31.9と低下の見通し。
- ・引き合いDIは前回は▲6.6<sup>ポイント</sup>の▲7.3と減少したが、先行きは今期比+8.0<sup>ポイント</sup>の0.7と増加の見通し。
- ・在庫DIは前回は+0.2<sup>ポイント</sup>の3.0と増加したが、先行きは今期比▲6.7<sup>ポイント</sup>の▲3.7と減少の見通し。
- ・今期は、仕入れ単価は低下したが売上げも減少し、業況全般は悪化した。先行きは、販売単価、仕入れ単価ともに低下が続くものの、売上げは増加し、業況全般は改善する見通しとなった。

### 資金繰りは悪化、設備、人員数は改善、労働時間、賃金は増加

- ・資金繰りDIは前回は▲1.2<sup>ポイント</sup>の▲10.2と悪化したが、先行きは今期比+4.3<sup>ポイント</sup>の▲5.9と改善の見通し。
- ・設備DIは前回は+1.2<sup>ポイント</sup>の▲3.6と改善したが、先行きは今期比▲0.1<sup>ポイント</sup>の▲3.7と悪化の見通し。
- ・雇用において、人員数DIは前回は+0.3<sup>ポイント</sup>の▲32.1と改善し、先行きも今期比+1.7<sup>ポイント</sup>の▲30.4と改善の見通しだが、人手不足は続く。労働時間DIは、前回は+2.2<sup>ポイント</sup>の2.9と増加し、先行きも今期比+3.0<sup>ポイント</sup>の5.9と増加の見通し。賃金DIは前回は+7.3<sup>ポイント</sup>の30.7と増加し、先行きも今期比+1.9<sup>ポイント</sup>の32.6と増加の見通し。

### 経営上の課題と対応方針

- ・経営上の課題としては、「人手不足・技術者不足」が48.9%と最も多く、主な対応方針は「新規採用・獲得」が45.3%であった。2番目に多かったのが「売上減少・停滞」の41.6%であり、主な対応方針は「新規取引先開拓」が35.0%であった。3番目に多かったのが「採算悪化」の40.9%であり、主な対応方針は「収益力確保」が25.5%であった。

### 実施している主な情報セキュリティ対策

- ・実施している主な情報セキュリティ対策について、「ウイルス対策ソフトやファイアウォールの導入」が76.6%であった。2番目に多かったものは「アクセス権限やパスワード管理の強化」が35.8%であった。

### 情報セキュリティについて今後強化したい分野

- ・情報セキュリティについて今後強化したい分野として、最も多かったものは「ネットワーク防御（ファイアウォール、侵入検知等）」が40.1%であった。2番目に多かったものは「社員教育・啓発活動」が37.2%であった。

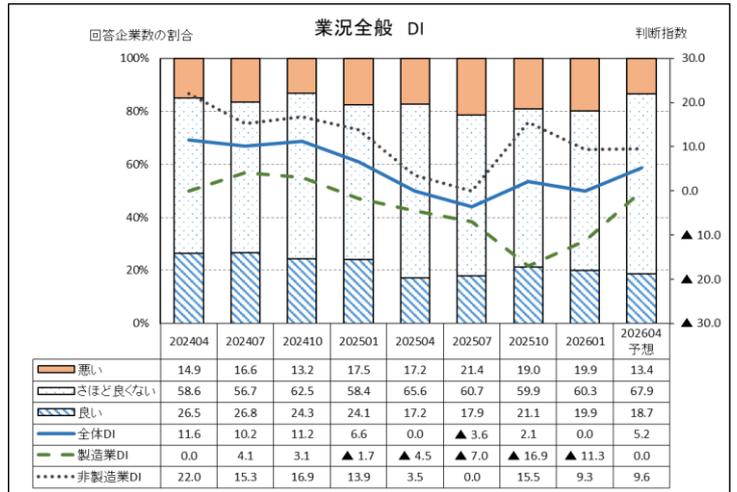
## 業況全般

業況全般 DI は前回に比べ悪化したが、先行きは改善する見通し

今期の業況全般 DI における全体 DI は、0.0（前回比▲2.1<sup>ポイント</sup>）と悪化した。

製造業 DI は▲11.3（同+5.6<sup>ポイント</sup>）と改善したが、非製造業 DI は 9.3（同▲6.2<sup>ポイント</sup>）と悪化した。先行きでは、全体 DI は 5.2（今期比+5.2<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは 0.0（同+11.3<sup>ポイント</sup>）と改善し、非製造業 DI の先行きも 9.6（同+0.3<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しである。

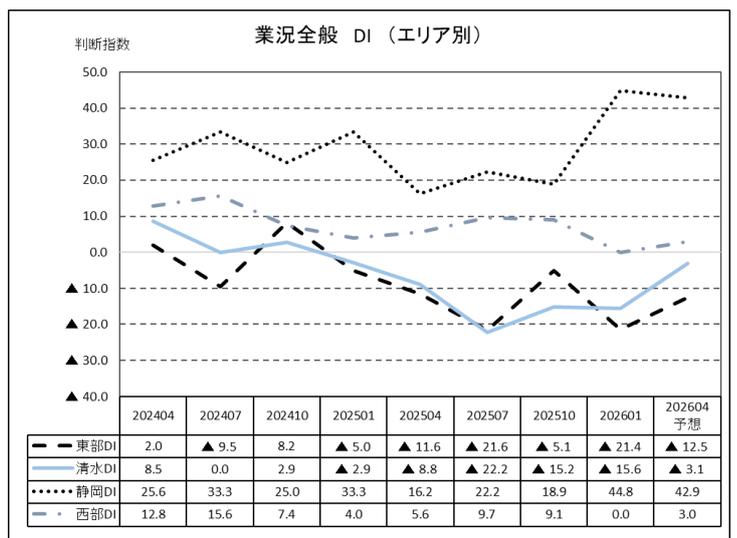


## 業況全般（エリア別）

エリア別の業況全般 DI は、静岡エリアは改善したが、東部エリア、清水エリア、西部エリアは悪化した。先行きは、東部エリア、清水エリア、西部エリアが改善し、静岡エリアは悪化する見通し

今期のエリア別の業況全般 DI は、静岡 DI が 44.8（前回比+25.9<sup>ポイント</sup>）と改善したが、東部 DI が ▲21.4（同▲16.3<sup>ポイント</sup>）、清水 DI が ▲15.6（同▲0.4<sup>ポイント</sup>）、西部 DI が 0.0（同▲9.1<sup>ポイント</sup>）と悪化した。

また、先行きについては、東部エリア、清水エリア、西部エリアは改善する見通しであるが、静岡エリアは悪化する見通しである。



## 売上

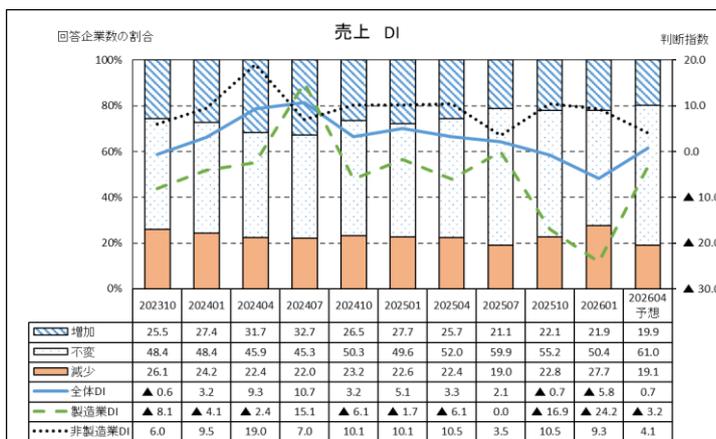
売上 DI は前回に比べ減少したが、先行きは増加の見通し

今期の売上 DI における全体 DI は、▲5.8（前回比▲5.1<sup>ポイント</sup>）と減少した。

製造業 DI は▲24.2（同▲7.3<sup>ポイント</sup>）と減少し、非製造業 DI も 9.3（同▲1.2<sup>ポイント</sup>）と減少した。

先行きでは、全体 DI は 0.7（今期比+6.5<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲3.2（同+21.0<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは 4.1（同▲5.2<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しである。



## 採算

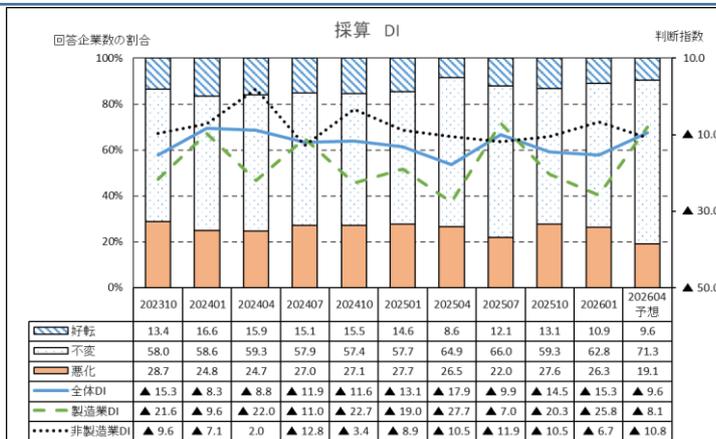
採算 DI は前回に比べ悪化したが、先行きは改善の見通し

今期の採算 DI における全体 DI は、▲15.3（前回比▲0.8<sup>ポイント</sup>）と悪化した。

製造業 DI は▲25.8（同▲5.5<sup>ポイント</sup>）と悪化したが、非製造業 DI は▲6.7（同+3.8<sup>ポイント</sup>）と改善した。

先行きでは、全体 DI は▲9.6（今期比+5.7<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲8.1（同+17.7<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは ▲10.8（同▲4.1<sup>ポイント</sup>）と悪化する見通しである。



## 販売単価

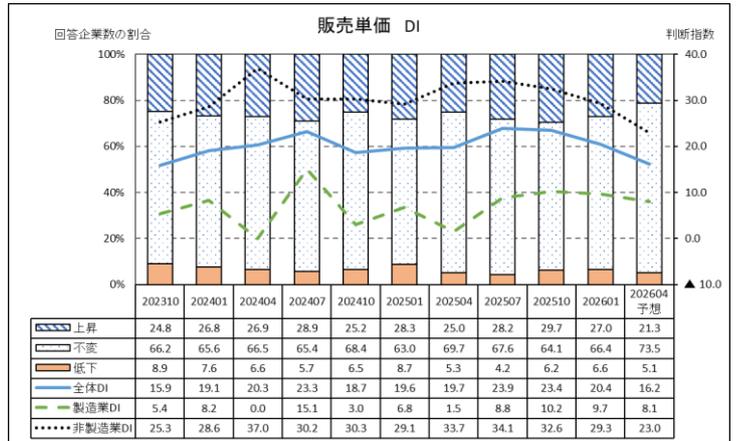
販売単価 DI は前回に比べ低下し、先行きも低下の見通し

今期の販売単価 DI における全体 DI は、20.4（前回比▲3.0ポイント）と低下した。

製造業 DI は 9.7（同▲0.5ポイント）と低下し、非製造業 DI も 29.3（同▲3.3ポイント）と低下した。

先行きでは、全体 DI は 16.2（今期比▲4.2ポイント）と低下する見通しである。

製造業 DI の先行きは 8.1（同▲1.6ポイント）と低下する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 23.0（同▲6.3ポイント）と低下する見通しである。



## 仕入単価

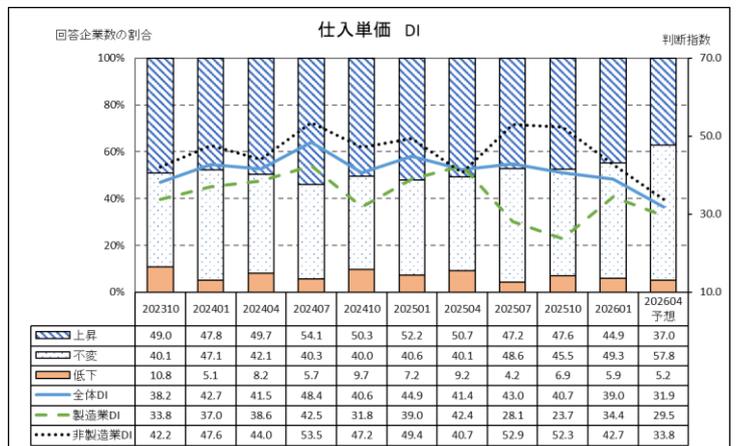
仕入単価 DI は前回に比べ低下し、先行きも低下の見通し

今期の仕入単価 DI における全体 DI は、39.0（前回比▲1.7ポイント）と低下した。

製造業 DI は 34.4（同+9.7ポイント）と上昇したが、非製造業 DI は 42.7（同▲9.6ポイント）と低下した。

先行きでは、全体 DI は 31.9（今期比▲7.1ポイント）と低下する見通しである。

製造業 DI の先行きは 29.5（同▲4.9ポイント）と低下する見通しであり、非製造業 DI も 33.8（同▲8.9ポイント）と低下する見通しである。



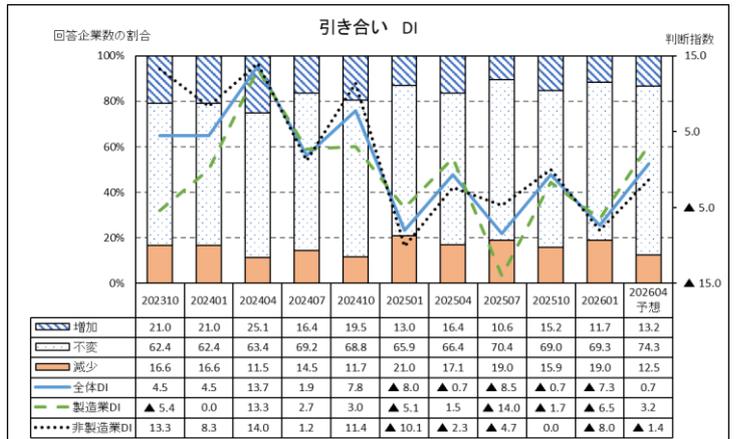
## 引き合い

引き合い DI は前回に比べ減少したが、先行きは増加の見通し

今期の引き合い DI における全体 DI は、▲7.3（前回比▲6.6<sup>ポイント</sup>）と減少した。

製造業 DI は▲6.5（同▲4.8<sup>ポイント</sup>）と減少し、非製造業 DI も▲8.0（同▲8.0<sup>ポイント</sup>）と減少した。先行きでは、全体 DI は 0.7（今期比+8.0<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは 3.2（同+9.7<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しであり、非製造業 DI の先行きも▲1.4（同+6.6<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。



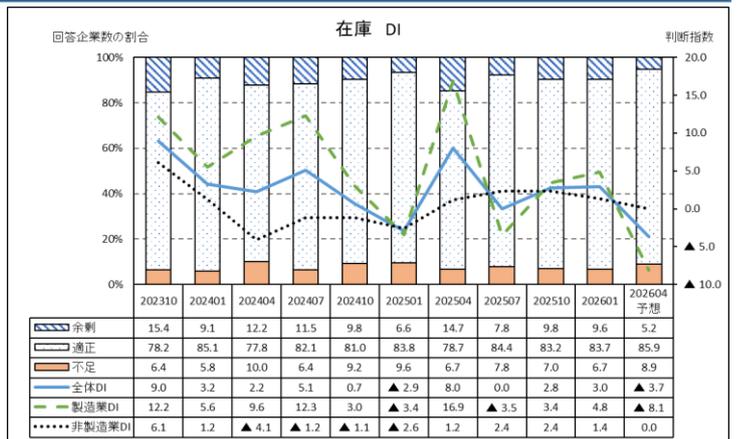
## 在庫

在庫 DI は前回に比べ増加したが、先行きは減少の見通し

今期の在庫 DI における全体 DI は、3.0（前回比+0.2<sup>ポイント</sup>）と増加した。

製造業 DI は 4.8（同+1.4<sup>ポイント</sup>）と増加したが、非製造業 DI は 1.4（同▲1.0<sup>ポイント</sup>）と減少した。先行きでは、全体 DI は▲3.7（今期比▲6.7<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲8.1（同▲12.9<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 0.0（同▲1.4<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しである。



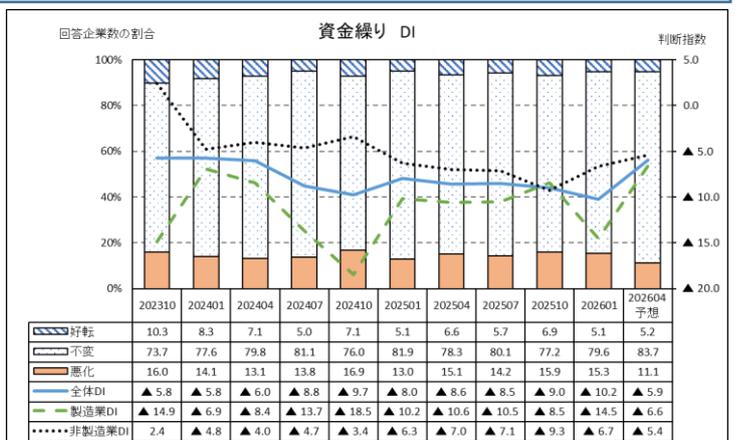
## 資金繰り

資金繰り DI は前回に比べ悪化したが、先行きは改善の見通し

今期の資金繰り DI における全体 DI は、▲10.2（前回比▲1.2<sup>ポイント</sup>）と悪化した。

製造業 DI は▲14.5（同▲6.0<sup>ポイント</sup>）と悪化し、非製造業 DI は▲6.7（同+2.6<sup>ポイント</sup>）と改善した。先行きでは、全体 DI は▲5.9（今期比+4.3<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲6.6（同+7.9<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しであり、非製造業 DI の先行きも▲5.4（同+1.3<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しである。



## 設備

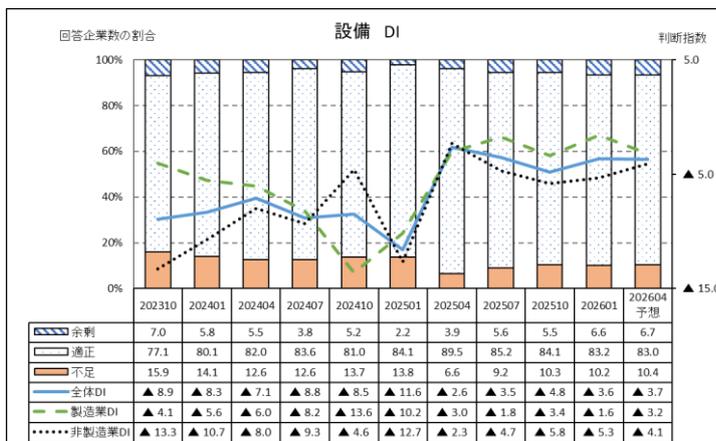
### 設備 DI は前回に比べ改善したが、先行きは悪化の見通し

今期の設備 DI における全体 DI は、▲3.6（前回比+1.2<sup>ポイント</sup>）と改善した。

製造業 DI は▲1.6（同+1.8<sup>ポイント</sup>）と改善し、非製造業 DI も▲5.3（同+0.5<sup>ポイント</sup>）と改善した。

先行きでは、全体 DI は▲3.7（今期比▲0.1<sup>ポイント</sup>）と悪化する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲3.2（同▲1.6<sup>ポイント</sup>）と悪化するが、非製造業 DI の先行きは▲4.1（同+1.2<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しである。

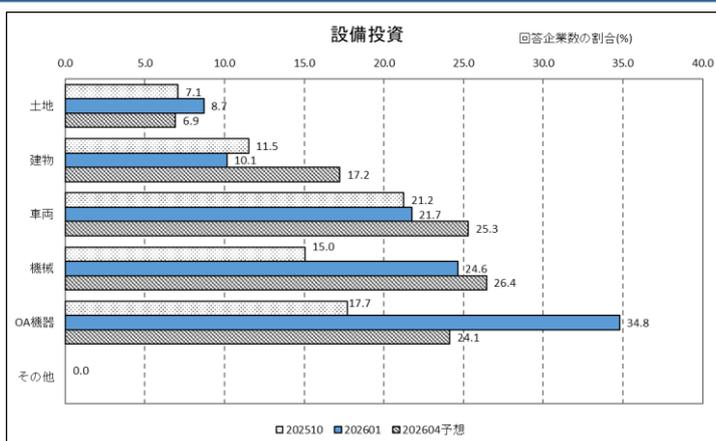


## 設備投資（複数回答可）

### 設備投資については、先行きも機械、車両、OA 機器が主流

今期の設備投資の状況は、OA 機器 34.8%、機械 24.6%、車両 21.7%、建物 10.1%、土地 8.7%であった。

先行きでは、機械 26.4%、車両 25.3%、OA 機器 24.1%、建物 17.2%、土地 6.9%に設備投資する見通しである。



## 投資意欲

「積極的」が 9.6%、「やや消極的」「消極的」がいずれも 12.0%と増加し、「やや積極的」が 26.5%、「変わらず」が 39.8%と減少した

今期の投資意欲の状況は、

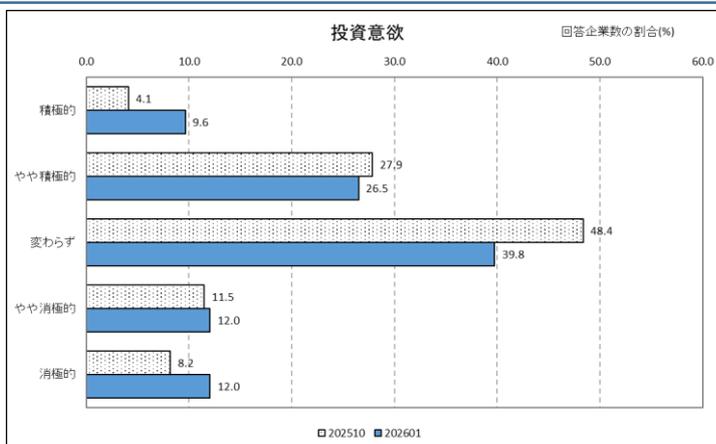
「積極的」9.6%（前回比+5.5<sup>ポイント</sup>）、

「やや積極的」26.5%（同▲1.4<sup>ポイント</sup>）、

「変わらず」39.8%（同▲8.6<sup>ポイント</sup>）、

「やや消極的」12.0%（同+0.5<sup>ポイント</sup>）、

「消極的」12.0%（同+3.8<sup>ポイント</sup>）であった。

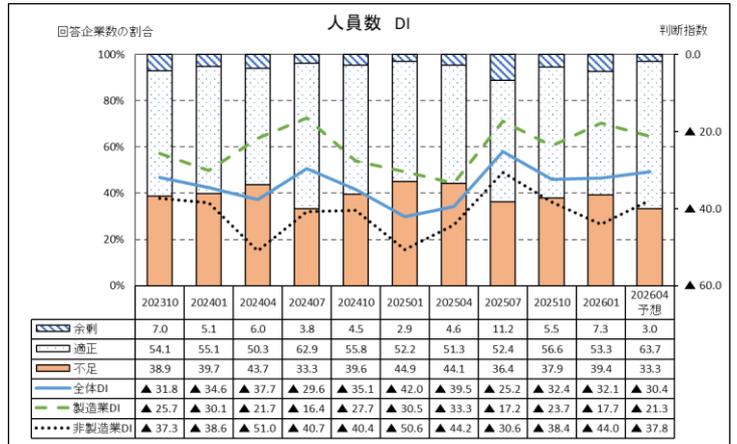


## 人員数

人員数 DI は前回に比べ改善し、先行きも改善の見通し

今期の人員数 DI における全体 DI は、▲32.1（前回比+0.3<sup>ポイント</sup>）と改善した。製造業 DI は▲17.7（同+6.0<sup>ポイント</sup>）と改善したが、非製造業 DI は▲44.0（同▲5.6<sup>ポイント</sup>）と悪化し、人手不足は続く。

先行きでは、全体 DI は▲30.4（今期比+1.7<sup>ポイント</sup>）と改善するが、人手不足は続く見通しである。製造業 DI の先行きは▲21.3（同▲3.6<sup>ポイント</sup>）と悪化する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは▲37.8（同+6.2<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しである。



## 労働時間

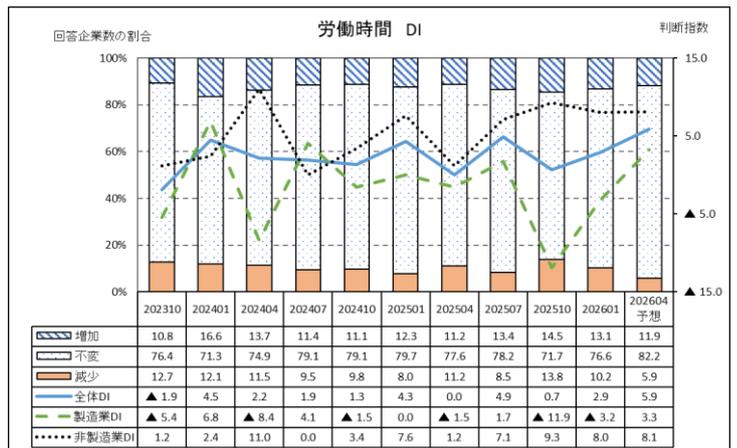
労働時間 DI は前回に比べ増加し、先行きも増加の見通し

今期の労働時間 DI における全体 DI は、2.9（前回比+2.2<sup>ポイント</sup>）と増加した。

製造業 DI は▲3.2（同+8.7）と増加したが、非製造業 DI は 8.0（同▲1.3<sup>ポイント</sup>）と減少した。

先行きでは、全体 DI は 5.9（今期比+3.0<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは 3.3（同+6.5<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 8.1（同+0.1<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。



## 賃金

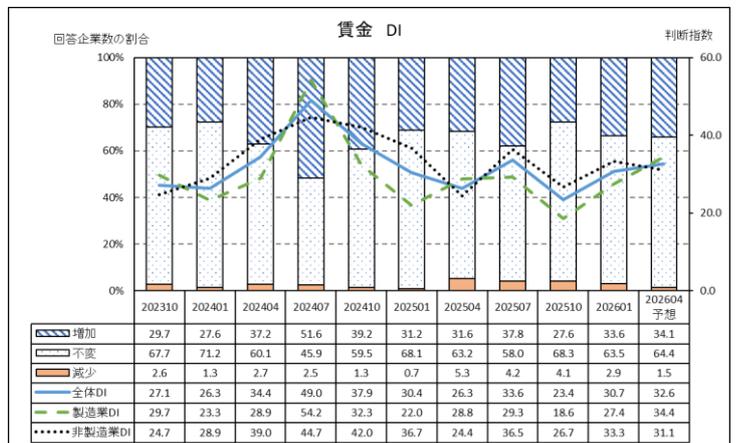
賃金 DI は前回に比べ増加し、先行きも増加の見通し

今期の賃金 DI における全体 DI は、30.7（前回比+7.3<sup>ポイント</sup>）と増加した。

製造業 DI は 27.4（同+8.8<sup>ポイント</sup>）と増加し、非製造業 DI も 33.3（同+6.6<sup>ポイント</sup>）と増加した。

先行きでは、全体 DI は 32.6（今期比+1.9<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは 34.4（同+7.0<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは 31.1（同▲2.2<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しである。



## 経営上の課題（2つまで選択） 課題に対する対応方針（複数回答可）

経営上の課題として最も多かったものは「人手不足・技術者不足」が48.9%であった。その課題に対する対応方針として「新規採用・獲得」が45.3%、「人材育成・教育の充実」が24.8%、「外国人の採用」が13.9%、「女性の業務範囲の拡大」が12.4%であった。

2番目に多かったものは「売上減少・停滞」が41.6%であり、対応方針として「新規取引先開拓」が35.0%、「販売強化のための増員」「新規事業の取組み・M&A（買）の検討」がいずれも7.3%であった。

「採算悪化」は40.9%であり、対応方針として「収益力確保」が25.5%、「受注単価の底上げ」が23.4%、「人件費削減・経費削減」が12.4%、「仕入原価節減」が8.0%であった。

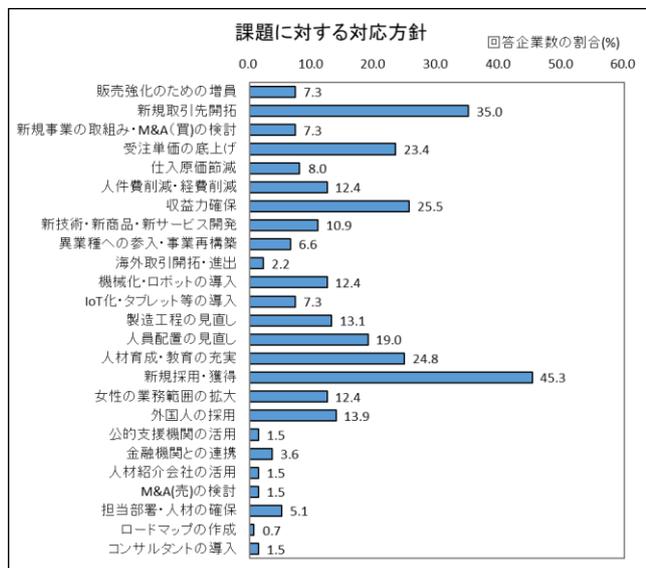
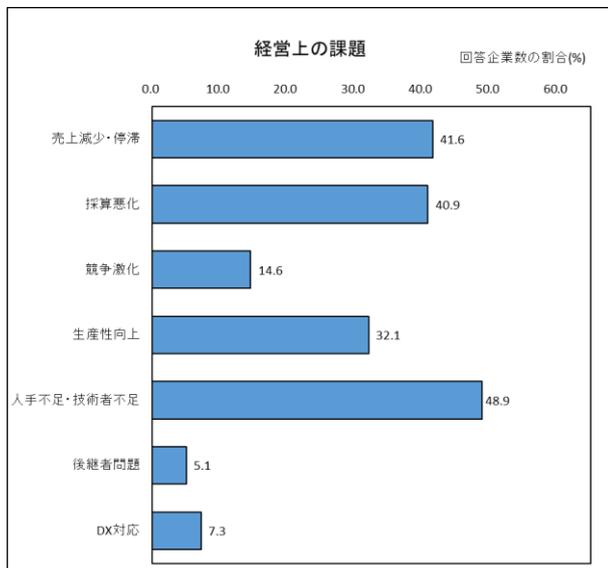
「生産性向上」は32.1%であり、対応方針として「人員配置の見直し」が19.0%、「製造工程の見直し」が13.1%、「機械化・ロボットの導入」が12.4%、「IoT化・タブレット等の導入」が7.3%であった。

「競争激化」は14.6%であり、対応方針として「新技術・新商品・新サービス開発」が10.9%、「異業種への参入・事業再構築」が6.6%、「海外取引開拓・進出」が2.2%であった。

「DX対応」は7.3%であり、対応方針として「担当部署・人材の確保」が5.1%、「コンサルタントの導入」が1.5%、「ロードマップの作成」が0.7%であった。

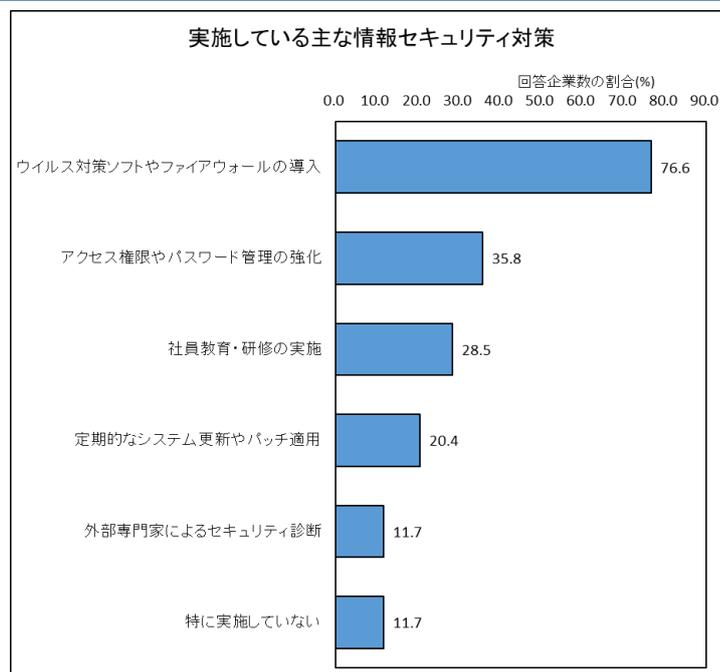
「後継者問題」は5.1%であり、対応方針として「金融機関との連携」が3.6%、「公的支援機関の活用」

「人材紹介会社の活用」「M&A（売）の検討」がいずれも1.5%であった。



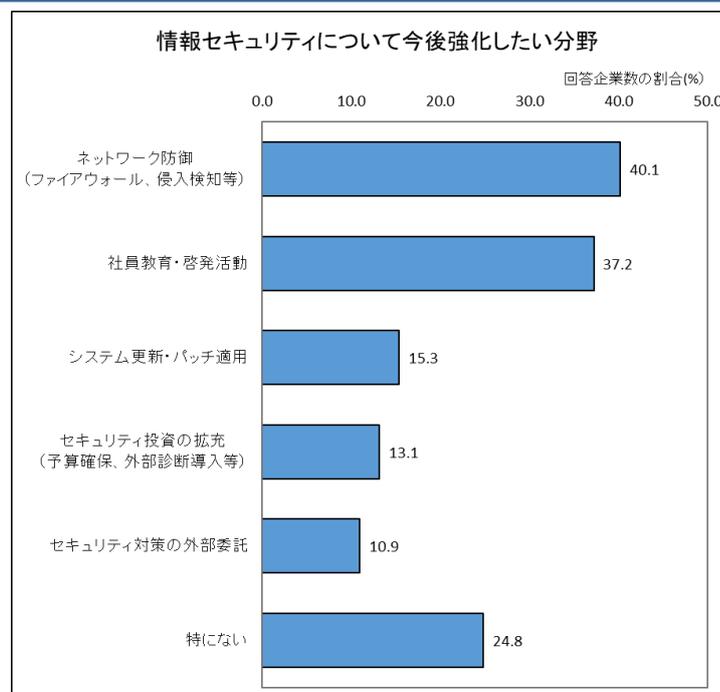
## 実施している主な情報セキュリティ対策（複数回答可）

サイバー攻撃による被害が続く中で、各社が実施している主な情報セキュリティ対策として、最も多かったものは「ウイルス対策ソフトやファイアウォールの導入」が76.6%であった。2番目に多かったものは「アクセス権限やパスワード管理の強化」が35.8%であった。次いで「社員教育・研修の実施」が28.5%、「定期的なシステム更新やパッチ適用」が20.4%、「外部専門家によるセキュリティ診断」「特に実施していない」がいずれも11.7%であった。



## 情報セキュリティについて今後強化したい分野（複数回答可）

情報セキュリティについて今後強化したい分野として、最も多かったものは「ネットワーク防御（ファイアウォール、侵入検知等）」が40.1%であった。2番目に多かったものは「社員教育・啓発活動」が37.2%であった。以下、「システム更新・パッチ適用」が15.3%、「セキュリティ投資の拡充（予算確保、外部診断導入等）」が13.1%、「セキュリティ対策の外部委託」が10.9%であり、「特にない」は24.8%であった。



特徴的なコメント

業種	業況全般（現状）	業況全般（先行き）
飲食品製造業	昨年より原料単価が下がり、売上減少	1月より、老朽設備の更新を実施
木材・木製品製造業	大手取引先のライン停止が長引き影響を受けた	大手取引先のラインが通常操業に戻る見込み
パルプ・紙・紙加工品製造業	輸入品の影響でティッシュの価格転嫁ができず、採算的に厳しい	自社製品の需要は高止まりしているが、輸入品が安く出回っており、値崩れを懸念している
金属製品製造業	材料費高騰、労務費高騰、一方で製品単価変わらず営業利益が低下している	客先の動向は不透明であり、受注増になる要素が少ない
一般機械器具製造業	大手企業の不調により、業績が悪化	大手企業から一時的ではあるが引き合いがあり、仕事が流れてきた
自動車・同部品製造業	引き合いは増加したが、受注まではいかず	メーカーによる新規開発案件が激減しており、今後1年間は厳しい状況が続く見通し
自動車・同部品製造業	客先の決算期に向けてやや増産傾向にあるが、全体的にぱっとしない	しばらくは様子見
その他製造業	受注好調も、仕入れコストも上昇気味	国内外の情勢が不明瞭の為に数か月先も読めず
建設業	建設引き合いは底堅いが、原材料価格・人件費は継続して上昇傾向である 施工高確保は人材・協力業者の確保状況に左右される	現在と状況はほとんど変わらない見込み
建設業	案件自体は確保出来ているが人員の割り振りに苦慮している	仕入販売とも価格はある程度落ち着いてきたものの、金利上昇傾向が設備投資意欲に与える影響を注視している
卸・小売業	年末商戦は昨年並みの数字だったが、市場の状況は弱い	今後も円安傾向が続くと、収益悪化が予想される
物流・運輸業	消費低迷が続き、荷動きが弱く感じる	軽油の暫定税率廃止により負担軽減されるも、価格面では追随率が低い
医療・福祉	金利上昇に伴い、借入金残高に支払利息が影響する	新規事業所の開設により引き続き売り上げの増加が見込まれる
その他サービス業	売価の若干の値上げにより売上金額は微増している	最低賃金の上昇及び金利上昇を見通す中、経費増加により採算の悪化を見込んでいる
業種	雇用（現状）	雇用（先行き）
パルプ・紙・紙加工品製造業	相変わらず採用ができない	運が良ければ採用できるかどうかという状況である
金属製品製造業	コア人材となるエンジニアや営業の労働力不足	技術力及び営業力強化のための採用をしていく
一般機械製造業	従業員一人に対するの負荷が大きく、効率が悪い	人員を増やす予算のめどがたたない
自動車・同部品製造業	苦労したが何とか人員確保することができた	ゆとりはないが、賃上げはする予定
その他製造業	慢性的な人員不足	大きな変化はないと考える
建設業	若年層が多く世代間のアンバランスが課題 20代の教育、早期戦力化が肝。	近隣他社の初任給水準を勘案し、引き上げ対応を検討する単に同額にするのではなく、福利厚生、社風、年収ベースでの比較等、学生向けには丁寧な説明を心掛けていく
卸・小売業	正社員雇用が進まず、労働時間・賃金は上昇	賃金上昇で社員応募はあるが、採用までいかず不足が続く
物流・運輸業	売上増加を指向するも採用面での厳しさは増加している	定着の為、出来るだけ増やしたい
物流・運輸業	貨物量は減少しているが、毎年昇給をしている	先行き不安定である 適正運賃がもらえない
医療・福祉	介護事業は社員確保が困難な為、派遣社員の割合が増加	若手社員の退職や定年退職が重なり、採用に力を入れたい
その他サービス業	中途退職者の補充を進めている	最低賃金上昇を見込み、春から賃上げを実施見込み

調査の概要

調査時点：2026年1月8日～1月20日

調査方法：郵送による記名アンケート方式  
及びWebによる回答方式

対象企業：清水銀行取引先企業 220社

回答企業：137社

回答率：62.2%

業種名	先数
飲食品製造業	8
木材・木製品製造業	6
パルプ・紙・紙加工品製造業	8
化学工業	1
金属製品製造業	13
一般機械器具製造業	10
自動車・同部品製造業	10
その他製造業	6
建設業	17
不動産業	4
卸・小売業	17
物流・運輸業	14
医療・福祉	10
その他サービス業	13
計	137

株式会社清水地域経済研究センター

発行日 2026年2月6日

〒424-0941 静岡県静岡市清水区富士見町2番1号

Tel.054-355-5510 Fax.054-353-6011 E-mail smz-center@smz-kenkyu.jp 杉山